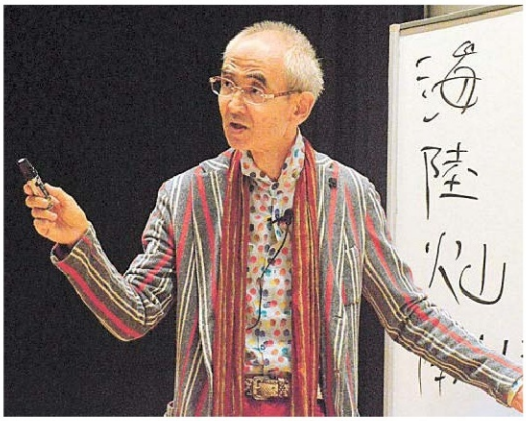
「西日本大震災」備えて

静岡 火山学者鎌田氏ら講演

火山学者の鎌田浩毅京都大教授を招いた講演会「富士山噴火と南海トラフ」（静和工業主催、静岡新聞社・静岡放送後援）が30日、静岡市駿河区の県男女共同参画センター「あざれあ」で開かれた。鎌田教授は「〝西日本大震災〟はおよそ15年後に起き、東日本大震災より1桁大きい被害が出ると考えて備えてほしい」と訴えた。

南海トラフ地震について鎌田教授は過去のデータに基づき「2035年±5年」に起きる恐れがあるとの仮説や、死者32万人、被害額220兆円という被害想定を紹介し「日本の国を破滅させるかもしれない災害が必ず来ると認識してほしい」と危機意識を具体化させる重要性を強調した。富士山噴火の見通しや自然の恩恵についても解説し、聴衆約350人が熱心に耳を傾けた。



必ず起きる〝西日本大震災〟への備えの大切さを訴える鎌田浩毅教授＝30日午後、静岡市駿河区のあざれあ

防災啓発活動に取り組む県弁護士会の永野海弁護士も講演し、児童74人が犠牲になった大川小（宮城県石巻市）の遺族の声などを聴衆に届けた。永野弁護士は「科学的な知見を学び、どうしたら大切な人の命を守れるかを自分の頭で徹底的に考えて」と呼び掛けた。

（社会部・鈴木誠之）

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます